

下水汚泥肥料を利用したベビーリーフ栽培

令和5年度作成
(試験実施：令和4年度～)

農場の概要

- ・地域 深谷市戸森
- ・対象作物 ベビーリーフ（数品目を混合して栽培）

導入した肥料

- ・試験区 かんとりスーパー 豊作の友（協和化工株式会社） N：P：K = 2.9：4.1：0.4
- ・対照区 芳醇（コンポストたい肥） N：P：K = 3.5：4.0：0.5

導入の目的・ねらい

下水汚泥由来の肥料を導入することで、循環型農業の実現を目指す。

試験概要

- ・面積 試験区：3a 対照区：3a
各区から発芽状況のよい90cm×3mの区画を選定し、区画内で収量調査等を行った。
- ・肥料施用量 試験区：100kg/10a 対照区：80kg/10a
- ・主な管理作業（時期・内容）
施肥・耕うん 9月28日
畝たて・は種 10月6日（1回目）、11月24日（2回目）
雑草の発生により、種子をまき直した。
- 収穫（2回目は種後）
12月18日に1回目の収穫を行い、以降1週間ごとに計4回収穫



収穫の様子

結果概要

当初に播種したものは雑草が繁茂したことにより収穫が困難となったため、再度は種を行い収量調査を行った。これに伴う追肥は行っていない。

日によって収量のばらつきは見られたものの、最終的な両区の収量に差は見られなかったことから、肥料の効果は市販の肥料と遜色ないものと思われる。また、品質についても両区に差は無かった。

対照区で使用した肥料はコンポスト肥料であり、試験区で使用した汚泥肥料と似たような肥効であったことが考えられる。

生産者コメント

今回は粉末タイプを使用したのが、機械で施肥をする場合はペレット状の方が使用しやすいと感じた。

下水汚泥肥料の安全性について消費者理解が進めば、農産物を販売するうえで環境に配慮した生産方法として強くアピールができるようになると思う。

問合せ先

大里農林振興センター

電話：048-523-2812

単収 (kg/m ²)	収穫日				合計	平均
	12月18日	12月27日	1月4日	1月12日		
試験区	0.57	0.25	0.36	0.20	1.38	0.35
対照区	0.53	0.25	0.53	0.24	1.55	0.39

* 栽培品目：小松菜 + 水菜

表：両区収穫量



1月12日収穫前ほ場（試験区）
左：試験区 右：対照区